

【栗東市】
校務DX計画

1. 校務DX化の現状及び成果

当市では、教職員の働き方改革や教育活動の高度の実現を図るため、以下のとおり次世代校務DX環境を整備し、令和4年4月から運用を開始させた。

(1) 校務系・学習系ネットワークの増強

GIGAスクール当初では、市立12小中学校の回線速度は1Gbps(帯域保障型)であったが、次世代校務DX環境の整備および全国学力学習状況調査のCBT化に向けて、令和7年4月より2Gbps(帯域保障型)の通信帯域を整備した。

(2) 校務支援システムの整備

本市では、令和4年度に校務支援システムを導入した。名簿管理や出席簿、保健関連の業務において、働き方改革につながった。また、小中学校のデータ移行もスムーズとなる校務支援システムの整備が実現できた。

校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業を一掃した学校の率(令和7年度)	100% (12/12校)
--	------------------

(3) 校務用・学習用端末の活用

教員が授業で使用する指導者用端末としてChromebook 端末を整備している。指導用端末と校務用端末を分けることにより、不便ではあるが個人情報を実際に管理する方法を選択した。

(4) 汎用クラウドツールの活用

ファイルサーバをクラウド環境で構築しており、「学校間」、「学校と教育委員会間」の文書や資料の送付、データの授受等に活用している。また、教職員全員に校務用個人メールアドレスを付与しており、外部との連絡に活用できる状態である。

クラウド環境を活用した校務DXを積極的に推進している学校の率(令和7年度)	100% (12/12校)
---------------------------------------	------------------

(5) 押印やFAXの原則廃止

市立12小中学校において、押印やFAXを原則廃止している。

FAXでのやり取り、押印を原則廃止した学校の率(令和7年度)	100% (12/12校)
--------------------------------	------------------

(6) 保護者宛一斉配信システムの導入

令和7年9月より市立12小中学校に保護者宛一斉配信システムを導入し、学校から保護者へ発信するお便り・配布物のデジタル化を進めることができ、ペー

パーレス化が進んでいる。

2. 校務DX化の課題

1の現状及び成果のとおり、校務DXを推進するための基盤整備は概ね終えているものの、以下の課題が挙げられる。

(1) 各種システムのデータ連携

校務支援システムや学習eポータル、保護者連絡システム、デジタルドリルなど、データ連携が必要であるが関連させることが難しい状況である。

(2) 教育ダッシュボードの導入

今後、教育ダッシュボードを導入・運用することで、個別最適化された学習、問題の早期発見と支援、教員の指導力向上や業務効率化など教育の質を向上させる効果が得られるとされる一方、「校務系データ」と「学習系データ」の連携に係る技術的問題や品質、ランニングコストなどのリソースの確保、教員がダッシュボードを効果的に活用するためのスキルなど、多様な課題がある。

3. 校務DX化の今後の計画

2の課題に基づき、以下のとおり校務DXに向けた検討を進める。

(1) クラウドサービス活用の拡充

- ・Microsoft Teamsをはじめとするグループウェアを活用し、チャットおよびファイルの共同編集など、コミュニケーションの円滑化を推進する。

(2) 各種システムのデータ連携に向けた検討

- ・各種校務支援システム等に関する国・県の動向を確認する。
- ・教育委員会として、今後の教職員の働き方像を描きながら、次世代の校務システム等の整備方針を決定する。
- ・教育ダッシュボードの導入に向けては、その目的を明確にし、教育委員会として真に収集が必要なデータを把握する必要がある。教職員へのアンケートやヒアリング、また先進自治体の事例を参考にしながら検討を進めていく。

¹教育ダッシュボード：成績や出欠席情報、授業における端末の利用状況などの教育データを集約・可視化し、分析を行う教員用のシステム